

高橋孝弥さん探究講演

グロ探通信

10号

★編集★
グロ探通信班

あきらめない。繰り返す。それが探究だ！



自身の探究の過程を振り返り、G探生徒にメッセージを伝える高橋さん。

8月24日(水)の午後、G探の1年生・2年生を対象とした探究講演を行った。

講師としてお招きしたのは筑波大学生命環境学群地球学類1年に在学中の高橋孝弥さん。実は高橋さんには昨年の夏、土佐高校3年生だった時に講演していただくはずだったのだが、台風で中止になってしまった経緯がある。

今年2回目の正直！高橋さんは、高校在学時に行った「地震時の副次的災害による被害を考慮した避難経路の考察」という研究で、日本学生科学賞を受賞し総文祭で全国4位の成績を収め、また日本代表の発表者となるなど非常に高い評価を受けた。G探生徒からすると、まさに憧れの先輩ともいえる。



熱心に聞くグローバル探究科生徒

講義前半は高橋さんの探究についての講義。まったく手元を見ず、全体に視線を向けながら、タイミングよくスライドを操作して説明をしていく。ごまかしたところ、時間が足りなかったところについてもユーモアを交えながら率直に話す高橋さんだが、講演の最後に発した「新しい時代を生きるため、探究活動は力になる。あきらめずに続けよう」というメッセージに、生徒たちは深く感銘を受けたようだった。

休み時間には、高橋さんが現在さまざまな大学の仲間と共に作っている、地球を解説する動画のYouTubeチャンネルを教えてもらい、さっそくのぞいてみる生徒も。2〜3歳しか違わない高橋さんの行動力に感動していた。ちなみにQRコードはこちら！

講義後半は交流会と銘打って、いろいろな質問を実際に聞く時間。生徒から出た質問の抜粋と、その答えは以下の通り。

Q. 論文を書くときに気を付けたらいいことは？
A. 自分の意見と引用をはっきりと区別すること。

Q. 日常生活で触れない話題となると、すぐにそれをよく知る人や団体に取材することを考えてしまのですが、他に情報の見つけ方がありますか？
A. Googleスカラーなどで論文を集め、自分なりに解釈して知識を得てから取材に行くといいのでは。

Q. 学校側からの支援はあったか？
A. 高知コア研究所の4名の先生に非常にお世話になった。一人の研究者として接してもらえて嬉しかった。



かろのほら

最後に、高橋さんから翌日にいただいたメッセージをお届けします！

高橋さん、ありがとうございました。またの機会も作りましょう！

してほしいなと思います。

まずは、昼食後という一番眠たい時間にもすごい集中して聞いてくださり、ひとりひとり様々な考えや意見・質問を持ちながら望んでくれたことに感謝を言いたいです。私自身も高校時代、研究を進めていくにあたって様々な障壁にぶつかってきました。時間的な問題。金銭的な問題。体力的な問題。やりたくてもそこにリソースが割けないようなときも数多くありました。そして何度も苦しい時期を味わいました。あの研究で本当によかったのか。あの方法で本当によいのか。毎日毎日考えました。考えても考えずこのまま進めようってなっていたのが事実です。

その中でも頑張っ続けてくれたのは周りの人、周りの友人の応援だったり様々な人のサポートでした。当然一人ではあの研究は成し遂げられなかったと思います。授業の中でもお話ししたように、お友達同士、そして先生とのコミュニケーションも大事に

そんな時はそれでいいんです。そこまで終わって何が良かったのか。何がまだわからないのか。新たな課題は何なのか。そういうことを少しでも見つけられたならば、あなただちの探究活動は本当の探究になるんです。

結果だけを重視しがちな世の中で、世知辛いような世の中で、こんなことが何に役に立つんだ？と思う時もあると思います。ですが、ここで学んだことはきっといつか絶対に役に立つと思います。だからこそ大変だとは思いますが、探究活動ってものを少し楽しんでみてほしいなと思います。昨日はありがとうございました！